

# 道具のアドバイス

芸大・美大受験実技指導

## H 初田美術研究所

「弘法筆を選ばず」と言いますが、私たちの場合はそれなりにしっかりとした道具を使わないと、作業の効率も悪く、思い通りの作品が作れません。無理をして高価な物を買う必要はありませんが、その使いやすさや質にはこだわるべきでしょう。使用頻度や使い勝手を考えて、自分なりに質、種類共に充実を図りましょう。

### <鉛筆デッサンに必要な道具>

1. 自分の視力に合った眼鏡 デッサンは対象をよく観察することから始まります。しっかり見えていないとしっかり描けません。

2. 鉛筆 2Hから6Bまで揃えます。Bの鉛筆は柔らかく早く減るので、各種3本は必要です。Hの鉛筆はBに比べると硬質で減り方が遅いので各種2本程度で良いです。“三菱”と“ステッドラー”が有名なメーカーですが、三菱の“ユニ”か、“ハイユニ”を薦めます。

3. 練りゴム



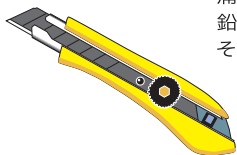
左図のような俵型をした、粘土のように柔らかい消しゴム。“ホルベインのNo.5”がお薦めです。持ち易い大きさにちぎって少し練ってから使います。使うときの感覚は消しゴムというより、白い鉛筆で描き込んでいく感じです。鉛筆の粉がいっぱい付いて黒くなってしまったら、また練ると使いごちが良くなりますが、ベタベタと指に付く様になれば替え時です。

4. プラスティック消しゴム



練りゴムはじっくりと鉛筆をとりながら描き込むのは適していますが、大きく形を直したい時には、やはりプラスチック消しゴムが早く消えます。左図のように一面をカッターで斜めに切っておけば、細かい所を直すときや、エッジを鋭く出したいときにとても便利です。

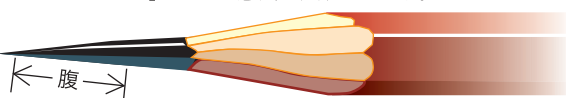
5. カッター(L型)



カッターで鉛筆の芯を長めに削り出します。デッサンでは、鉛筆の先だけではなく“腹”も使います。制作途中で紙を痛めずにおおまかに形態をとるには、鉛筆を寝かせ気味にして腹で描きます。その腹を削り出すためには電気鉛筆削りではなく、自分の手を使ってカッターで削る事が必要です。

そして、なにより「鉛筆一本、自力で削れんでプロになれるか!」という心意気大切です。

芯を長く出し、先を尖らせる! →



鉛筆デッサンもこだわりが持てるようになってくると、尖った鉛筆で何時でも細かく描き込めるように、鉛筆の本数も気になってきます。何よりも制作時間中に鉛筆を削っていると、それだけで、集中力がそがれてしまいます!

6. 紙ヤスリ

鉛筆の先を鋭く尖らせる時、カッターではどうしても上手に削れないという場合に使います。制作中でも浅い小箱の中に240番くらいの紙ヤスリを入れておけば細かく描き込みたいときに素早く削れます。

7. 鉛筆用のホルダー(補助軸)



これがあれば、短い鉛筆でも新しい鉛筆を使っているときのように、のびのびとデッサンが出来ます。金属製で長持ちするし、1本100円くらいで手頃なので2〜3本は持っておきたいものです。

8. ノック式のホルダー消しゴムが売っていて、細かい仕事をするのに便利でお勧めです。

先端は丸型とか角型などがあります。

消しゴム



9. 目玉クリップ 2個

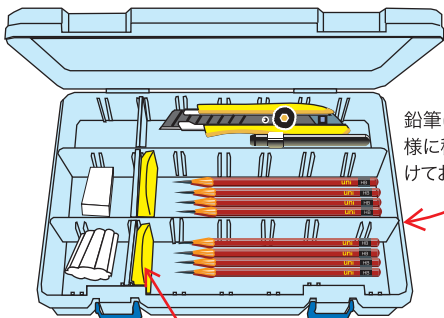
画用紙を画板に固定するために使います。

10. ティッシュやガーゼ

鉛筆の調子をこすって落ちつかせるために使います。

11. 鉛筆箱

市販の筆箱では、少々入り切りません。樹脂製のルアーケース等は中の仕切りを自由に組み替えられて便利です。大きさは大体25cm×15cmくらいが良いでしょう。鉛筆の長さが18cm弱なので、適当なものを探して下さい。



鉛筆は選び易い様に種類別に分けておきましょう。

持ち運ぶ時に尖らせた鉛筆の芯が折れない様にスポンジなどの緩衝材を入れておきます。

### Tips 鉛筆の削り方

鉛筆は左手で削ります!

左手に鉛筆を持って、右手にカッターを持つ。右手は刃の角度が動かない様にカッターをしっかり固定するだけです。

カッターを動かさずに、左手の親指を支点にして、鉛筆を手前に引く様な感覚で削ります。浅い角度で芯の先まで長く削って、“腹”を作ります。鉛筆削りは慣れです。

最初はぎこちなくても、徐々に削れる様になります。

\*左利きの人は左右逆にして下さい。

## <着彩に必要な道具>

- 1. 透明水彩絵の具** ホルペインの18色セットと単色でオペラレッド。 セット以外でも自分の気に入った色、「これは使える！」と思う色があれば積極的に買い揃えましょう。(入試の時、色数を制限する大学は殆どありません。)
- 2. 不透明水彩絵の具** 形を修正する時や、すごく鮮やかな色が欲しいときに便利です。画材店では「ガッシュ」と言う名前です。白色は必ず必要。後は使えそうな鮮やかな色を自分で考えて揃えましょう。蛍光色はやめておきましょう。
- 3. 水彩用画筆** セーブル毛(クロテンの毛)くらいの12号(太さ)が良いでしょう。5,000円くらいで高価ですが描き心地がかなり違います。同じセーブルの4号くらいの細めの筆も持っている、細かい部分の描き込みに最適です。色彩構成用の筆と着彩用の筆は毛の質が違うので注意しましょう。ポスターカラーは透明水彩絵の具より顔料の粒が粗いので筆が摩耗し易く、高価なセーブルで描くのは適しません。面倒でも、着彩と色彩構成は筆を分けて使いましょう。



- 4. 雑巾とティッシュペーパー** 雑巾はタオル地の物が良いです。筆に含ませる水の量を加減したり、何かと便利で絶対必要です。
- 5. パレット** 金属に塗装をした、二つ折りで出来るだけ大きい物が良い。重いのと軽いのがあります。軽いほうが描いていて疲れなと思います。着彩では前もってパレットに絵の具を入れて乾燥させたものを準備しておきます。

### 着彩用パレットの準備

★パレット作りは最初が肝心！使い易いパレットを作しましょう。

- ①各色の配置を決めます。  
同じ色相は隣り合わせで順序よく、色相が変わる所は将来色数を増やす事を考慮して、間を開けた方が良いです。(スペースに余裕がある大きめのパレットを選びましょう。)

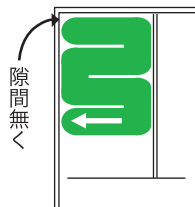
★濁り易い色と濁し易い色(うすい明るい色と濃い暗い色)は隣同士に置かない様にします。

- ②絵具を入れます。

一マスに一色づつ、チューブの半分くらいを思い切り良く入れます。この時にマスの隅に隙間を作らない様にキッチリ「つづら折り状」に入れます。

★良く乾かしたら準備完了です。

★不透明水彩を併用する時は、少し塗る場合パレットの隅に出して使っても良いのですが、そうでなければ着彩用パレットの他にペーパーパレットを使います。



## <色彩構成に必要な道具>

- 1. スケッチブック** アイデアを考える時に使います。クロッキー帳でもOK。B4程度の大きめのものが使いやすい。セクションパーツという薄いグレーの方眼のついた物もあります。レポート用紙のようにバラバラになる物は使いにくいです。
- 2. 鉛筆** デッサン用の物でいいのですが、スケッチブックでの仕事はB〜2Bがスラスラと描けて、適しています。画用紙での下絵はH〜HBを薄く使うと良いでしょう。
- 3. 水彩絵の具** ポスターカラー・ガッシュ(不透明水彩絵具)・アクリルガッシュ。ポスターカラーとガッシュは顔料をアラビアゴムのメディウムで練ったもので、隠蔽力(下の色を覆い隠す力)が強くメリハリのある色面の表現ができます。ポスターカラーとガッシュの違いは、ポスターカラーは色が経年退色しやすく、ガッシュは、経年退色にも強いのですがその分高価です。アクリルガッシュとは艶消し不透明のアクリル絵具です。顔料とアクリル樹脂エマルジョンで作られていて、水で描けますが一度乾いて固まると水には溶けなくなります。ですから、乾いた所を少し溶かしたりする事は、アクリルガッシュでは出来ません。用途に応じて絵の具を選んで下さい。★メーカーはターナー、ニッカー、ホルペインがポピュラーです。学童用絵具のたぐいは発色が悪いので買ってはいけません。★アクリルガッシュとアクリル絵の具は違います。アクリル絵の具は透明でビニールの様な艶があり色彩構成には適していないので注意して下さい。★ポスターカラーにはチューブ入りと、瓶入りがあります。瓶入りの物を使うにはポスターカラーを絵皿に出すための道具が必要です。これには百円ショップのパレットナイフやペンチングナイフが大変便利です。★アクリルガッシュは乾くと水に溶けないので絵皿は使えません。ペーパーパレット(MサイズかF4サイズ)が必要です。★試験で色数を制限される事は殆ど無いので、こまめに画材店に通って自分の好きな色を発見しておく事も大切です。
- 4. 色見本** 画材店でも売っていますが、自分で作る方が断然良いです。単語カードに自分が作った色をその都度塗って、裏には使用した色と混色の割合を記入しておきます。このオリジナル色見本カードは配色を考えるときに、ビックリするほど役立ちます。
- 5. 筆** 下記3種類の筆は太さを違えて少なくとも各3本は必要です。できれば、赤系統専用、青系統専用、白専用・・・と言うふうに分けておくとうれしいです。筆は時々石鹸で付け根に溜まっている絵の具をしっかりと落としておきます。バサバサになってしまった筆はリンスすると少しコシが戻ります。絵の具を付けたまま放置したり、水入れにつけっぱなしにしておくとすぐにダメになります。



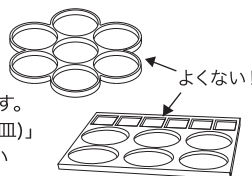
### 6. 絵皿とペーパーパレット

プラスチック丸皿



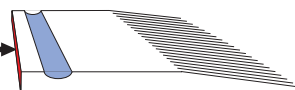
葉味皿

絵皿は白色のプラスチック製の、一皿一色のが便利です。重ねられるので茶筒に入れて持ち歩けるし、絵の具が入ったまま重ねられるので作業時間中に一度作った絵の具が乾いてしまう事がなく、一皿一色なので先に使ったのと同じ色が必要ときに便利。何よりも直径8cm弱と持ちながら塗るのに最適。5枚セットで300円程度で安くはないですが、最低30枚は必要です。アクリルガッシュは乾くと取れないので、使い捨ての「葉味皿(試食皿)」が便利です。右図の様な菊形の絵皿や大きなパレットはとても使いにくいので買わないようにしましょう。



7. 直定規 60cmと30cmの2本があれば便利。みぞびき用のみぞ付きの物が必要。

→ カッターで紙を切るときはこちら側を使います。



8. 三角定規 30cmの大きい物。マス目が付いている物は平行線が引きやすく便利です。

9. 製図用コンパス ロットリング、UCHIDA、ステッドラー等、パーツを付ければ半径20cm以上の円でも描ける物。300円くらいの小学生用の物はやめましょう。

10. みぞびき棒 みぞびきするときに筆と一緒に持って使う棒。いずれはみぞびきしなくてもきれいに直線が描けるようにならないといけません。ガラス製の物が多いのですが金属製の物も売っています。これは落としても割れないのでお勧めです。

11. 絵具を溶くための水入れ 絶対に筆洗の汚れた水で絵具を溶かさないこと！限りなく色が濁ります。

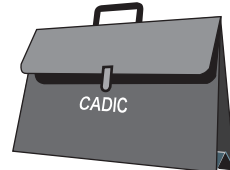
12. 雑巾 絶対に必要です！汚れたら、まめに洗うか、新しい物と取り替えましょう。

13. ティッシュもしくは、紙ナプキン 画面に水をこぼした時とか、「雑巾ではガサツ過ぎる！」という時に使います。

14. カッター、練りゴム 鉛筆デッサンで使っている物で良いです。余白にはみ出した時にカッターで削り落したり、やむなく塗り直しをする場合は練りゴムで擦ってから重ね塗りをするすると下の色と滲み難くなります。

15. キャディック 作品を持ち運ぶための手掛けカバン。(ポートフォリオとも言う) **四つ切り画用紙が入る“A2用”**の物。作品は出来るだけ良い状態で自宅に持ち帰り壁に貼って眺める事が上達のポイント。飽きるほど自分の作品を眺めて、反省するポイントと次回の抱負を考えておきましょう！筒状の物も売っていますが、丸めると作品が痛むのでお勧め出来ません。

16. 他に、エスキース(どんな作品を作るのかという計画)で色鉛筆を使いますが、少し高価ですが、ファーバーカステル社が発色がよくお勧めです。18色セット程度で良いと思います。

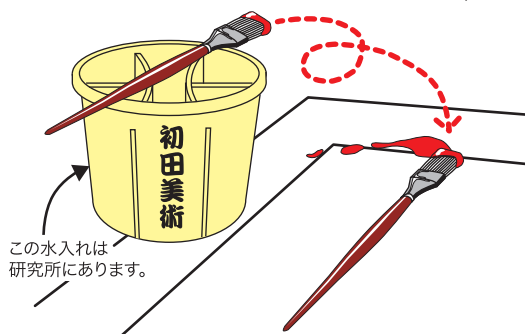


## Tips

★デッサン上達法 ★家でモチーフを組んで描くのも良いのですが、電車で居眠りをしている人、家で寝転がっているお父さん、愛犬などのクロッキーをどんどん重ねて描いていくと上達します。

★色彩構成をするにあたって ★エスキースは最も大切です。大きく、沢山描きましょう。20〜30枚はザラです。★きれいな仕事を心掛けましょう。画面の上に置いた絵皿の裏が汚れていたり、筆洗に筆を橋渡しにするのは事故のもとです。★無理はしない。時間内にきれいに仕上げられる作品を作る。難しい、細かい仕事をしたい人は家で秘密特訓をします。分割や色数が多いからといって、必ずしも美しいとは限りません。★どんくさい人は持っている絵具の色数を増やすだけでも仕事が早く進みます。★普段から研究しておきます。ブティック、デパートのディスプレイ、雑誌、CDジャケット、ネクタイ・スカーフの売り場など、色の組み合わせの参考になります。インターネットの画像検索で色々調べたり、美術館・ギャラリーにも積極的に観に行こう！

コロコロ・ポトツ！



## <立体構成に必要な道具>

とりあえずこれだけは揃えよう！ カッターナイフ・はさみ・接着剤・粘土ペラ・ラジオペンチ・三角定規・分度器・直定規・コンパス。

以上は京都芸大の“立体受験用具”にも挙げられているので必ず揃えましょう。

1. カッターナイフ 本体と刃先のぶれが少なく、替え刃が入りやすい物が良いです。メーカーでは“OLFA”、サイズはL型がお勧めです。アートナイフ・デザインカッターはペン型で刃先がより鋭利で、細かな作業や小さく切り抜き等に向いています。いずれも刃は使い捨てです。惜しまずこまめに替えましょう。

2. はさみ ステンレス製の物で充分です。あとはメガネの部分が指に負担にならないかどうかです。先の尖った物と丸い物がありますが、どちらでも特に問題は無いですが、強いと言えば尖っている物の方が多少使い良いです。横着して木の角棒や針金等をはさみで切ってはけません。「馬鹿とはさみは使いよう」という諺もあるとはいえ、刃のこぼれたはさみでは綺麗に切れません。

3. 接着剤(糊は少しでもしっかり付くので、付けすぎない事！)

●紙の場合 主に使うのは**木工用ボンド(速乾性)**です。殆どはこれに対応出来ますが、薄物(コピー用紙やトレーシングペーパー等)の接着にはスティック糊(強力タイプが良い)が素材への染み込みが少なく適しています。 せまい所や細かい所の接着には紙片・楊枝などに接着剤を適量塗り塗るようすると作業がし易くなります。また、仮止め用にクリップや洗濯ばさみ等があると便利です。テープ等一秘密兵器的存在。両面テープは使い方によっては利用価値が高い。セロファンテープ、マスキングテープの使用は仮止め程度に留めておきましょう。テープ類は素材感があるので、見えない部分の使用に限りです！

●その他、プラスチック・金属・発泡スチロールなどの場合

これらの素材の短時間で接着は難しく、両面テープか専用の瞬間接着剤、エポキシ系接着剤(2液を混ぜる物、5分硬化型が使え易い)、スチ糊等を使えば可能ですが、視覚的に美しくありません。構造的に接合法を工夫する方が賢明です。

4. 粘土ペラ 「自分の指が最高の粘土ペラ！」と言いたいです。指だけでは表現しきれない事も多いので、色々な物を利用しましょう。木製……柘植(つげ)製の物がポピュラーで、先端の形態は様々です。竹製のものは安価で100円ショップでも入手出来ます。それをナイフで加工して自分流のへらを作ってみるのも良いでしょう。

金属製……鉄製、ステンレス製などがあります。鉄製の塑像へらが1本あればかなりの事が出来ます。また、お好み焼きを返すコテがなかなか優れたもの。環状の金属を取り付けた“かき出しペラ”も便利です。細かい細工には油彩用のペインティングナイフがお勧めです。



糸……主に切断に用います。テグス(釣り糸)やピアノ線など切れにくく細いものを使います。糸のままでは扱いにくいので両端に棒切れを結びそれをつかんで使います。糸の長さは50〜60cmが適当でしょう。

その他……プラスチックの下敷きや三角定規も平面を作る時に便利です。 なんでも、試してみましょ！





- 5.ペンチ まずはラジオペンチ1本。100円ショップの物は弱いのでだめです。出来ればラジオペンチと普通のペンチ1本ずつか、ラジオペンチ2本を揃えると、針金の加工に便利です。
- ラジオペンチ・・・鳥のくちばしの様に先の尖ったペンチ。ラジオなどの電子部品を使った回路の組み立てに使用されるので、その名が付けました。
- どちらかと言えば細かい作業に適していますが、まあ万能型と言えます。
- ペンチ・・・先の形状はゴジラの口といったところ。要するに一般的なペンチです。



## ＜木炭デッサンに必要な道具＞

- 1.木炭 なんといっても、まずは柳ノ 柳(ヤナギ)の木を高熱で焼いた木炭は、青みがかった黒で濃淡の調子が非常に出しやすい物です。伊研の木炭「ヤナギ炭 No.360」、ホルバインの「ヤナギ炭 No.B」が柔らかくて濃いバランスの良い代表的な炭です。二つとも一本あたり170円程度です。お金の無い時は伊研「ヤナギ炭 No.500」がお手頃です。No.500は銀紙を巻いていないので一本あたり60円程度で、銀紙を取る手間も省けます。ヤナギの他では栗(クリ:やや硬い乾いた炭)や樺(カバ:しっかりとした手応えのある淡い炭)、桑(クワ:やや腰のあるしっとりとした濃い炭)、などがあります。すべてヤナギより硬めで、細部の表現や微妙な調子の調整に便利です。伊研の「クリ炭 No.770」、「カバ炭 No.380」、「クワ炭No.361」等を試してみましょう。人によって描き易い木炭は異なります。色々な木炭を積極的に試して自分に合ったものを見つけましょう。
- 2.木炭紙大カルトン(画板のこと) 木製の物よりも厚紙を分厚く貼り合わせた2つ折りのものが良いです。
- 3.MBM木炭紙 特厚口 130g 5〜6枚 5〜6枚を重ねて使います。1枚:370円程度。
- 4.木炭芯ぬき 木炭の断面の中心には周りと質の違う“芯”があります。芯を残したまま描くと、木炭がうまく乗らなかったり、練りゴムで消しても消えない事があります。芯の抜き方は煙突掃除の様に、芯ぬきを木炭の芯に通して貫通したら数回前後させ、芯ぬきを抜き、息を強く吹き込み残った芯の粉を吹き出します。昔はコイルのあるギターの弦で抜いていました。今では300円ぐらいで画材店に売っています。
- 5.ガーゼ 木炭を押さえて木炭紙に定着させたり、叩いて木炭を全体的に落としたりします。研究所で用意してますから申し出てください。
- 6.はかり棒 特に画材店で買う必要はありません。自転車のスポークや毛糸の編み棒など直径3mm程度の細い棒ならOKです。木炭紙の長辺の半分の長さ(32.7cm)に切って、短辺の半分の長さ(25cm)の所に印を付けておけば画面の中心を求める時に便利です。
- 7.丈夫な空き箱 木炭はとても折れ易いので、落としても大丈夫な様にお菓子の空き缶などに入れておきましょう。
- その他 練りゴム・プラスチック消しゴム(鉛筆デッサン用と同じ)、目玉クリップ(大)4個、カッター、フィキサチフ(スプレー缶)

## ＜油絵に必要な道具・・・必要最小限だけ＞

まず、よく見かける木箱に入ったスケッチセットは小さく重く受験には適していません。プラスチック製の軽くて大きな道具入れの様な物に、絵の具、筆、パレットなどを個別に買い揃えて収納しましょう。

- 1.油絵の具 最初は12色程度のセットを買いましょう。3000円程度です。セットには含まれていませんが、「カドミウムレッド」や、「コンボーズブルー」等、混色で作れない色は単品で買いましょう。ホワイトは20号チューブの大きな物を買っておくと安心です。
- 2.筆 豚毛(ぶたげ)の“フィルバード(毛先の形)”が使い易いです。平筆が使い込まれた先薄の形状で、穂先の使い勝手が良く絵具がなれの良い筆で、下塗りから描き込み、仕上げまで使用できます。細いのは0号から、太いのは24号まで色々な太さが必要で、最初は十数本で良いですが、試験では筆を洗う時間も惜しまれるので、両手の平で抱える程度の本数は必要です。最初は筆に一番お金がかかってしまいます。
- 3.ペーパーパレット(LサイズかF6サイズ) 2冊 まっ平らな物が良いです。一つは全色を縁に並べて使い、もう一つは混色専用に使います。
- 4.ペインティングナイフ 一本目のナイフは“太は小を兼ねる”で、刃長が10cm最大刃幅が3cmぐらいの大型のものが良いです。2本あればなお使い易いです。パレット上で絵具やメディウムを混ぜ合わせるのにも使いますが、作画において筆には出せない独特のタッチを出す物として非常に魅力的な道具です。刃の形状も細長いものや丸く小さいものなど色々あって、それぞれの独特なタッチが楽しめます。単純な道具だけに使い次第で様々な面白い表現が出来るのもナイフの魅力です。
- 5.古タオル・ボロ布 油絵の具は乾きにくい所が長所です。絵の具をのせて描くだけで無く、布の使い方を工夫して絵の具を拭き取りながら描く事が出来れば、速乾材に頼らず、前に塗った絵の具と止めどなく混ざって濁ってしまう事も無く制作出来ます。古タオル・ボロ布は必需品です。
- 6.リンシードオイル(接着剤の役目のオイル)と、テレピン油(リンシードオイルを薄めるオイル)
- 7.油つぼ 口が広くてしっかり密閉出来るものが便利です。一作ずつ出した油を使い切っていくなら100円ショップの小さい灰皿の様な物でもOKです。
- 8.オドレブラシクリーナー ブラシクリーナーから石油のにおいの成分を除去した筆洗浄。
- 9.密閉型筆洗器 しっかり密閉出来ないと、試験で移動出来ません。大きい物が良いです。中には水とオドレブラシクリーナーを入れます。
- 10.キャンバス用木枠 F15号 杉材、または集成材のものが良い。

軽くて柔らかいアガチス材等は貼り直しに不向きです。キャンバス布は研究所で買えます。

その他 木炭(下描きに使います。)、古新聞(何かと便利)。

長々と書きましたが、必要に応じて独自に道具に工夫をこらす事も“ものづくり”の愉しみであり、合格への近道になる事でしょう。

なお、画材についての相談は甲南画材がお勧めです。



### 甲南画材

〒658-0052  
神戸市東灘区住吉東町2丁目3番20号  
フォルザ住吉 TEL/078-855-8550

芸大・美大受験実技指導

## H 初田美術研究所

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5-1-2  
太陽ビル 3F TEL&FAX 078-351-6260  
<http://www.hatsuta-art.com/>

・JR元町駅 西出口より2分  
・阪神元町駅 西出口より2分  
・地下鉄県庁前駅 西出口5より3分  
・阪急花隈駅 東出口より5分

